

# 議事録

会議の名称	(番号) 1-06	令和4年度第2回墨田区廃棄物減量等推進審議会		
開催日時	令和4年10月12日(火) 10時00分から11時15分まで			
開催場所	区議会第1委員会室(区役所17階)			
出席者数	16人[委員] 萩原なつ子 見山謙一郎 伊藤林 丁官一郎 井上佳洋 廣田健史 富樫榮子 齋藤敬三 佐藤美帆 長津かよ子 小木曾清三 牟田口雄彦 山田清子 坂井ユカコ はらつとむ 鹿島田和宏 [事務局]すみだ清掃事務所長 すみだ清掃事務所係長4名 すみだ清掃事務所係員2名、墨田清掃工場長			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	0人
議題	1 令和3年度資源物・ごみ排出量実績について 2 廃プラスチックの分別収集・再資源化の事前実施・普及啓発について			
配付資料	資料1 令和3年度資源物・ごみ排出量実績 資料2 廃プラスチックの分別収集・再資源化の事前実施・普及啓発について			
会議概要	<p>1 開会。</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 令和3年度資源物・ごみ排出量実績について 事務局から、令和3年度資源物・ごみ排出量実績について報告した。</p> <p>(2) 事務局から、廃プラスチックの分別収集・再資源化の事前実施・普及啓発について報告した。</p> <p>【報告に対する質疑応答、意見】</p> <p>(委員) モデル地域について、分別方法は資源ごみの日になるのか、それとも別の形で出すのか。また、ボトルでもキャップと別にするという話が他区であるが、その辺は具体的にはどのように考えているのか。</p> <p>(事務局) 収集日については、資源の日とは別にプラスチックの日を単独に設けて収集することを検討している。理由として、現状の資源物の日に品目をプラスしてしまうと、集積所が溢れかえってしまうことから、(プラスチックの日を)設けることを検討している。また、具体例としては、ペットボトルのキャップはプラスチックの日に出すことになる。</p> <p>(委員) そうすると、回収の日にちが今までより1日増えるということか。</p>			

- (事務局) そのとおりである。
- (委員) 回収車の稼働が増えると、CO<sub>2</sub>なども増加していくのではと思うが。
- (事務局) 以前、廃プラスチックを分別収集・再資源化した際のCO<sub>2</sub>削減効果の数値を示したが、その数値は車両台数増加に伴うCO<sub>2</sub>排出量の増加分も加味しての数字である。確かに車両台数が増えるとCO<sub>2</sub>排出量も増えるが、総合的にみるとCO<sub>2</sub>排出量は減少するという結果となっている。
- (委員) 粗大ごみで出したものはリサイクルされるのか、それとも燃やしてしまうのか
- (事務局) 粗大ごみについては、基本的に中央防波堤の粗大ごみ破碎処理施設に搬入され、破碎して埋め立てることになる。ただし、現状では破碎処理してもものうち、可燃処理できるものは逆走といってまた清掃工場に戻して燃やしている。そのため、埋立てになるのはリサイクルできない不燃物だけとなり、プラスチックについてはおそらく逆走という形で清掃工場にて焼却している形になっていると思われる。
- (委員) そうすると今までのサーマルリサイクルと同じ扱いになると思う。もし2センチくらいであれば、30センチとして回収して欲しいと思うが、「約30センチ以内」とか「概ね30センチ以内」とかにできないか。
- (事務局) 現場で、物差しを持ってきちんと30センチを図っているわけではない。皆様にお配りしている「資源物とごみの分け方・出し方」においても「概ね30センチ以内」と記載させていただいている。区としては（示している基準は）30センチだが、現場の実情と併せて収集しているところである。
- (委員) 裁量があるということ。
- (委員) 資源で回収している食品トレーの扱いはプラスチックになるのか
- (事務局) 食品トレーについては、プラスチックという括りでプラスチックの日に出していただく。そのため、収集の日にちが変わることになる。
- (委員) ペットボトルはどうなるのか
- (事務局) [実物(サンプル)を用いて説明] ペットボトルだと、キャップと外側の包装はプラスチックの日に出していただくことになる。ただし、ボトル本体は現状とおりの資源物の日に出していただくことになる。  
(他のプラスチックと) リサイクル工程が違うことが理由である。ペットボトルからペットボトルへと品質のよいリサイクルができるため、今まで通り、ペットボトルとして回収させていただく予定である。  
他には、弁当ガラや食品トレー、プラ製のスプーン・フォーク、(金属の留め具がない) バインダー、クリアファイル、プラ製ケースケースなどはプラスチックの日に出せることになる。  
また、プラスチックを収集するにあたり全国的に問題となっている

のがリチウム電池である。ラジコンなどの子ども用おもちゃや電子タバコなどに使用されているが、混入してしまうと収集やリサイクルの行程で火災が生じる危険がある。ここの注意喚起というのが一つの大きな課題として認識している。

- ( 委 員 ) 「こういうものはいいですよ」「これは分解して出してください」などの細かい指示が過去に配られてもちゃんと見てもらえないので、収集日の時に看板などを置く必要があるかもしれない。
- ( 委 員 ) カミソリはどうか。
- ( 事 務 局 ) 全部プラスチック製であっても、刃物類は回収対象外となる。
- ( 委 員 ) ペットボトルキャップは、(拠点回収として)回収しているがそれはどうなるのか。なくなるのか。
- ( 事 務 局 ) 現状のところ、従来通りと考えており、なくす方向では考えていない。
- ( 委 員 ) 2点伺う。一つはどの程度の汚れまでであれば回収できるのか。また、詰め替え用ボトルなどについては、製造業者の方で回収して再生するというような仕組みも併せて考えるべきではないか。以上2点についてどのような見解を持っているのか。
- ( 事 務 局 ) 汚れに関しては、基本的には水でさっと流していただくということになっている。また、洗剤などのボトルについては、(事業者が)拠点で集めている場合があるので、そこに持ち込んでいただければ、(事業者のルートで)リサイクルされる。また、プラスチックの日に出すのであれば、区が責任をもってリサイクルすることになる。
- ( 委 員 ) いざ、プラスチックの資源化が始まった時の基準というのは、資源化というのがキーワードだと思う。出されたものを燃やすのではなく、再生できるように分けましょう、というのが基本だと思う。今、ご質問頂いたとおり、プラスチックの資源化というのは、行政だけでなく色々なルートがあっていいと思う。民間の事業者さんがご自分の商品をきちんとリターナブルもしくはリサイクルするような仕組みがあるならば、それはそちらできちんとやっていただくのが筋であって、全てが行政で対応するというふうな考え方にはなっていないと思う。そのため、色々なルートの中から、無駄にしないようにプラスチックを利用していきましょうというのを基本に据えてのプラスチックリサイクルというのが原則であると思っている。
- ( 事 務 局 ) ボトルのリサイクルについて補足する。現在、区内スーパーマーケットなどで、化粧品メーカーや洗剤メーカーとアタックを組んで、詰め替え用のボトルやパックを研究材料として回収している。ゆくゆくは、ボトルからボトル、パックからパックにするということ、業界内で研究している。
- ( 委 員 ) そういう情報がやはり区民にもっと流れた方がよい。今おっしゃったように、色々なルートがあるというのは区民にとっては良いことであり、行政だけに(リサイクルの)責任があるわけではないので、色々

なルートの情報が共有できる工夫も必要になってくると思う。

( 委 員 ) 集積所だけでなく、特に墨田区は家の置き場所も非常に小さい。ごみ袋も大中小あるが、ベランダなどに置くことになるのかなど。他の自治体ではごみ袋が有料のところもあるが、墨田区は無料ということでよいか。

( 委 員 ) 墨田区では置き場所が小さく、困ってしまうようなことも多いと思う。大前提として、リデュース、こういったごみや資源をなるべく使わないようにしようというところから、我々は普及啓発を考えていかなければならないと思っているので、ご理解をお願いしたい。

( 委 員 ) やはり分別方法について「わからない」という人もたくさんいると思う。今、清掃事務所ではチャットボットでFAQ、情報がでる仕組みがあるので役立てて欲しい。これからのことを考えて、「わからない」という答えを大事にして、それを今後の回収が本格的に始まったときのノウハウの蓄積として役立てて欲しい。

( 委 員 ) 前回の審議会でも色々なご意見を頂いて、普及啓発をしっかりやっていかなければいけないというのが、今のご意見だと思っている。廃プラスチックだけでなく、これを契機に、CO2削減の問題であったり、食ロスの問題であったり、そういったことを合わせて発信していかなければならない。その時に資料に記載しているやり方にプラスして、地域の方がこういうことをやっている、もっとわかりやすくなるというようなことについて、アンテナを張って、それを拾い出していかなければいけないと思っている。

墨田区の人口、世帯数は増えている。その中で単身世帯や若い方がマンション、ワンルームに入ると、ごみの出し方などが難しくなったという報告もあったりするので、そこを初めから完璧にするということとはありえないと思うので、継続的に、あきらめずに働きかけ、理解していただくような取組をずっとやっていかなければいけないと思っている。理想的な回収方法・資源分別というのは、一足飛びにはならないので、努力が必要かなと行政サイドでも考えている。

( 委 員 ) チャットボットは最近また紹介され、注目されている。チャットボットを紹介するチラシなどをマンションや駅に貼るなどの工夫が必要かもしれない。

( 委 員 ) ごみで一番問題になるのが大きさである。例えば洗濯かごなどは、1辺が50センチくらいになる。しかし現実的にそれを粗大ごみでだしているのを見たことがない。そうするとどうしているかという、現状やはり紛れて(燃やすごみなどで)捨てていると思う。ルール違反だと思うが、例えば分解したり切断したりして(燃やすごみなどで)出すというのはどうなのか。

( 事 務 局 ) 粗大ごみについては、分解・切断する前の元の大きさで1辺が概ね30センチを超えているかを判断している。例えば家具類など重量があ

るものについて、全部分解して、燃やすごみの日に出されても、（収集が）難しい現状がある。一方で、今後のプラスチックリサイクルについては、分解・切断したらリサイクルにまわせないかというところは、これからの検討の余地はあるのかなと思っている。

（ 委 員 ） プラスチック類で30センチはいっぱいある。それを全部粗大ごみというわけにはいかないと思うし、だからといってそのまま出されても困ると思う。その線引きをどうするかというのは問題だと思う。

（ 委 員 ） どこかで基準は作らないといけないと思う。先ほどの発言であったように、「概ね」というのもありかもしれない。ただし、何もないと無制限になってしまうので、ルールは決めましょうということだと思う。その中で、行政サイドとして30センチがいいのか、50センチがいいのか、現場の対応もあるので、それをやっていく中で修正を掛けていく必要があれば検討させていただき事項かなと思っている。

（ 委 員 ） 少しインセンティブを与えた方がいいと思う。面倒くさいことをやるわけだから、得になるようなことを考えればいい。プラスチックを資源だと考えるのであれば、50センチくらいのもものも、（通常）粗大ごみのところを（プラスチックとして）もって行ってあげるとか。そういう何かちょっとプラスになることを少し考えられないかなと思う。

（ 委 員 ） バランスだと思う。どこまでがいいのかというのは、先ほど申し上げた基準というものもあって、「大きいものであっても回収しろ」となった時に、現場対応としてリスクになったり、コストに跳ね上がったりしてしまうのであれば、これは考えなければいけない。今出させていただいているのは、まずはこれで進めさせていただこうという案であり、やっていく中で、考えさせていただくようになるのかなと思う。

（ 委 員 ） 事前実施することによって、色々な可能性や問題を発見すると思うので、どういう問題があるかということも含めて、審議会の中でも意見を頂ければと思う。

（ 委 員 ） インセンティブの1つの案であるが、資源の中でもアルミニウムなどお金に還元されるものもある。その地域で出したものをその地域に還元してやる。要は出るものが少なくなればその分の還元は下がってくるというような捉え方も一つの方法論としてある。

（ 事 務 局 ） 資料1の下段に集団回収と記載している。この集団回収は町会自治会やマンション管理組合、子ども会等が自主的に資源を集めて、民間の業者に売り払うというシステムである。集めた方々の団体にお金が入る仕組みになっているので、これが行政回収とは異なるインセンティブと捉えている。

（ 委 員 ） 資料1のとおり、集団回収量は減って、行政回収量は増えている。また、ごみの集積所についても、戸別回収が増えてきている。このことの一つの要因として、地域でそういったお話ができなくなってきつつ

あるというのが挙げられると思っている。我々としては、拠点として集積所にごみを出していただいた方が良いが、新築の家が建ったりするとどこにごみをだしていいかという話をしづらくなってきて、戸別回収になってしまう。行政としてはもっと地域コミュニティで取り組んでいただいた方が良く思っており、資源化できるものを集団回収などでやっていただくのがベターだと考えている。先ほど申し上げたとおり、行政だけで取り組むものではないので、民間や地域と協力していきながら、より良い方法を構築していくというのを、課題として捉えている。

地球温暖化やCO<sub>2</sub>排出など色々な会議の中でも議論いただいているが、インセンティブがないと中々切迫感がないので、先ほどのご意見のとおり、どういうふうにしたら皆さんに取組んでいただけるか考えていかなければいけない。しかし、出したものをポイントで還元するということではなく、皆さんに行動変容を伴うような意識を高めていただくということが本当に必要だと考える。家庭としてのインセンティブは必要なかもしれないが、より良い方法があればそれを一緒にやっていくようなスタンスの方が良いのかなと思う。

( 委 員 ) 2点伺いたい。1点目はモデル実施をした場合、その地域の人はプラスチックの日に食品トレーを出すようになると思うが、現在の資源の日に誤って出した場合、注意喚起シールを貼って残されるという対応になるのか伺いたい。2点目は、こういう計画を進めていく中で、先ほど話にあった若い人や単身の方の意見をどのように取り入れていくのかというのを教えていただきたい。

( 事 務 局 ) 1点目について回答する。モデル実施の詳細については検討中であるが、実施にあたっては事前の周知、普及啓発を丁寧に行っていく予定である。しかし、どうしても周知が行き届かず「知らなかった」という人も出てくると想定される。そのような方々が仮に変更前の別日で食品トレーを出してしまった場合でも、そのまま残しておくというのは区としては避けたいと考えている。パトロールや予備回収という形で対応したい。警告シールを貼って注意喚起するかどうかも含めて、今後の検討課題とさせていただきたい。

2点目について回答する。資料2「普及啓発の考え方」の2番目に記載しているとおおり、町会から選出されたりサイクル清掃地域推進委員と連携し、地域・町会の意見を汲み上げたいと考えている。

( 委 員 ) 若い方はそもそも町会に入らないので、若い方の意見は吸い上げられないのではないか。

( 事 務 局 ) ご意見のとおり、若い方たちは中々町会に参加されない現状がある。そのため、Twitterなどの各種SNSで発信しながらご意見を頂き、そのご質問に答えていくなどの仕組みも考えている。なるべく大きなチャンネルをもって若い方から高齢者まで理解いただけるような仕組

みを考えたい。

- ( 委 員 ) ご心配いただいているとおり、関心がない、もしくは面倒くさいと思う若い方に対してどうアプローチするかというところがとても難しいところである。モデル実施をやっていく中でそういった方々からご意見を頂くとする。それを積み重ねて、事例としてこんな声が上がったのでこうしよう、というようなことの発信の仕方を工夫させていただくというのが、現実的なのかなと、今の時点では考えている。
- ( 委 員 ) 廃品回収を「SDGSに参加しよう」と発信したところ、若い人が参加した。やはりそういうキーワードと呼びかけによって若い人も参加してくれると思う。あと、プラスチックの大きさだが、資源化を考えると、なるべく資源にいくようにして欲しい。
- ( 委 員 ) プラスチックでもそれをもらいたいと思う人がいるのでは。1回、まだ使えそうなものと明らかに処分しなければいけないものを分けて集めたらどうか。傾向を見たいと思う。
- ( 委 員 ) 水俣市のごみの分別について調べているが、水俣市のホームページには「ジモティ」のリンクを最初に大きく貼ってある。墨田区でも「おいくら」をやっているが、すごく小さい。水俣市のようにもっとおおきく大々的に宣伝してもよいのでは。
- ( 委 員 ) 先ほど私の方からお話させていただいたとおり、地域のよい取組は教えていただいて、それを他の地域に参考にさせていただくというようなことを是非させていただきたいと思っている。教えていただいた取組や事例についても、私は段階的なのかなと思っている。初めからやった方が上手くいくのか、まずはやり始めさせていただいて、色々な取組があることを付け加えさせていただいた方が分かりやすくなるのか、それはちょっとやり方を工夫させていただく必要があるのかなと、お聞きして感じた。
- ( 委 員 ) 必ずトラブルは起こると思う。特に、これから観光客や雇用者としてはいつてくる外国人。地域で、外国人や若い人も含めて、地域づくりのコミュニケーションをとる一つのツールとして、勉強会などができればよい。
- ( 委 員 ) 何をやるにしても、やはり地域のコミュニティを強くして、そのためのツールとしていくというやり方につなげていくのがベターと考える。やはりごみの分別が徹底されていない地域はあるが、他の地域の方々やマナーを守っていただいている外国人がいらっしゃるので、我々は粘り強く対応していかなければならない。それをもっと強くしていくためには、さっきおっしゃっていただいたコミュニケーションツールとして、このプラスチックの資源化というのが、地域の結束を強めるためのものとして生きてくれば、やっていきたい。悪いことをすることを防ぐような取組に行政と地域も一緒になって取り組まないといけない課題のかなと認識している。

( 委 員 ) 31日にやっている自転車と羽毛布団のリユース・リサイクルについて、回数を増やしたり、イベント回収の日に持っていけるようになったりできないか。

( 事 務 局 ) 区民の方々に指定の日に持ってきていただくことで、経費について事業負担で事業が成り立っているという実情がある。

( 委 員 ) 資源化も良いが、使えるものは使うってことをもうちょっと考えても良いと思う。何か使えるものだったら、使ってくださいといったことをやってもいいのかなと思う。

( 委 員 ) やはり地域が少子高齢化という中でイメージそのものが非常に疲弊してきている、だから先ほどの意見にあったように、この機会にコミュニティを再生するというのも重要だろうし、いわゆるZ世代は社会的な課題に非常に敏感であり、特にSDGSに非常に関心を持っている人たちも多いので、そこに訴えかける仕掛けが必要なのかなと思った。また、プラスチックの回収を始めることについて、販売店などの協力も必要になると思う。

SDGS未来都市になっている墨田区として、未来の世代に対して私たちはどういう責任をとるのかというのが非常に重要になってくると思うので、そのあたりも含めてモデル実施をしていただければと思う。

( 委 員 ) そもそもとして、手段と目的というのをはっきり分けて考える必要があると思う。廃プラスチックの「分別収集」は手段、「再資源化」は目的です。ここを一緒くたにしてしまうと何のためにやっているかわからない。環境省の審議会でも話をしているが、目的を要する自己啓発ということを促すためには、自己啓発というものを単に期待するというだけでなく引き出すためには、目的を共有してくというのがすごく大事なので、目的を明らかにすることが重要である。入口と出口があって、重要なのは出口側。要するに再資源化をしている姿が見えないところで「収集します」と言ってもわからない。だから、これが最後にどういう形で再資源化されているってところをしっかり見せていくことが大事だと思う。再資源化については、どこかの業者に委託すると思うが、例えばそこを区民に見学してもらおうとか。しっかり出口を見せないと自己啓発は促せない、必ず出口を見せて欲しいという話を環境省としています。

あと、例えばペットボトルの樹脂と他のプラスチックで何が違うのだろうかというところも、例えば子どもたちはすごく関心を持つと思う。学校の学習なんかで「ここが違う」というところをやると、家に帰って親にも話すと思う。そういう「なんでこうなっているんだろう」という「WHY」のところを徹底的に深く掘っていく作業が、最終的には自己啓発をめざすということに繋がっていくと思う。「自分事化



	<p>させる」ということが自己啓発なので、興味関心をもつような出口の仕組みをもっともっと考えていかれると、もっともっといい施策が生まれるのではと思う。</p> <p>また、環境省などでは、リデュース・リユースリサイクルに加えて、リペアという考え方を入れるべきじゃないかという話もある。先ほど話があったが、リペア、まだ使えるものは修理して使うという考え、そういったものを入れたりするのもよい。</p> <p>SDGSに絡めては、リサイクルショップともう一つ、チャリティショップというものがある。いらない食器などを持ち込んでいただきそれを買ってくれた方の売上で途上国の何かを支援でき、環境問題と貧困問題を繋げたり、SDGSの仕組みに繋がったりしてくる。こういうところは、学生がものすごく引き付けられるポイントだと思うので、チャリティショップとの連携みたいなところも良いかもしれない。民間の人たちが自主的に回収してくれれば、行政のコストも減るので、何かそういう仕組みを色々作れば面白いと思う。</p> <p>3 その他 事務局から、次回審議会を11月中旬に開催する旨の説明があった。</p> <p>4 閉会</p>
所 管 課	都市整備部環境担当すみだ清掃事務所管理・計画調整係 (5608-6706)